

経営比較分析表

兵庫県 福崎町

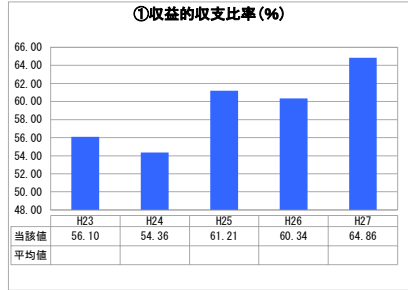
業務名	業種名	事業名	類似団体区分	
法非適用	下水道事業	特定環境保全公共下水道	D3	
資金不足比率(%)	自己資本構成比率(%)	普及率(%)	有収率(%)	1か月20m ³ 当たり家産料金(円)
-	該当数値なし	37.39	95.34	2,400

人口(人)	面積(km ²)	人口密度(人/km ²)
19,568	45.79	427.34
処理区域内人口(人)	処理区域面積(km ²)	処理区域内人口密度(人/km ²)
7,310	2.78	2,629.50

グラフ凡例

- 当該団体値(当該値)
- 類似団体平均値(平均値)
- 平成27年度全国平均

1. 経営の健全性・効率性



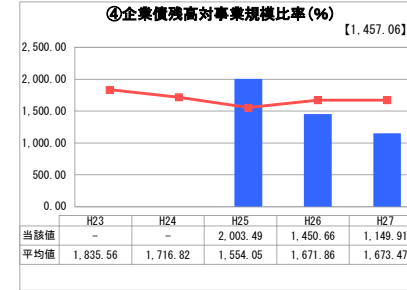
「単年度の収支」



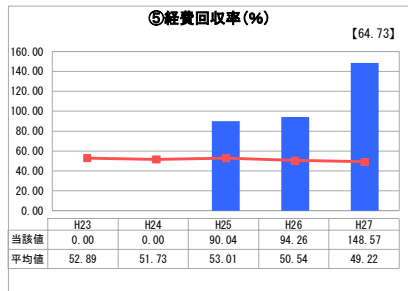
「累積欠損」



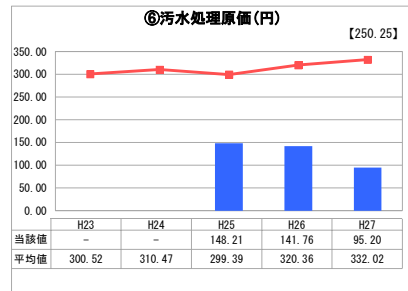
「支払能力」



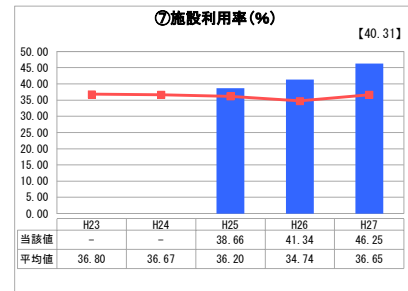
「債務残高」



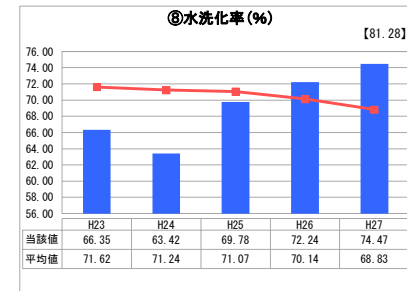
「料金水準の適切性」



「費用の効率性」



「施設の効率性」



「使用料対象の捕捉」

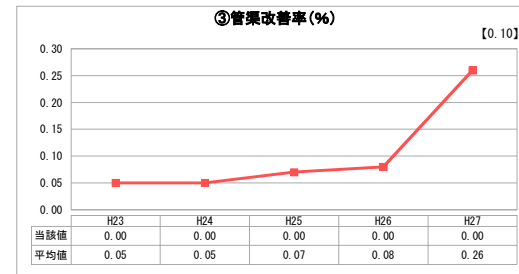
2. 老朽化の状況



「施設全体の減価償却の状況」



「管渠の経年化の状況」



「管渠の更新投資・老朽化対策の実施状況」

分析欄

1. 経営の健全性・効率性について

H27に計画区域の面整備が完了し、使用料収入が増加したことにより①収益的収支比率が4.5ポイント増となったが、資本費(地方債償還金を含む。)が年々増加し、一般会計繰入金への依存が高まっている。管渠整備の進捗状況及び今後の流入量の増を見込み、H23年度に処理場を増設した。これに伴い⑦施設の利用率は40%に低下しているが、今後の接続率の向上、流入量の増加により、施設利用率は向上する見込みである。また⑧水洗化率については、類似団体より高い率となっている。汚水処理経費については、膜処理方式の採用により効率的な稼働が図られていることから、経費を抑制できており、⑥汚水処理原価が類似団体と比べて低く、⑤経費回収率が高い要因となっている。④企業債残高対事業規模比率については、今後新たな借入れの見込みがないため、減少する見込みである。

2. 老朽化の状況について

管渠、処理場ともに、H15から整備を開始し、H17.3月に供用開始した。施設は比較的新しいが、処理場の機械設備等で耐用年数が短いものについては、短期的に計画的な更新が必要である。

全体総括

H27年度で計画区域の面整備が終了し、H29～H30にコミュニティプラント統合にかかる事業を予定しており、今後も地方債償還金の償還額が増加し、一般会計繰入金への依存が高くなる見込みである。施設はまだ新しいが、長期的な財政計画、長寿命化計画等を検討し、施設の更新に備える必要がある。財政計画の策定に合わせて、使用料設定の見直し等の検討も必要である。また接続率及び施設稼働率の向上に伴い、施設利用率の向上とともに、維持管理費の増高が見込まれるため、運営体制の在り方等の検討も必要になってくる。

※ 法適用企業と類似団体区分が同じため、収益的収支比率の類似団体平均等を表示していません。

※ 平成23年度から平成25年度における各指標の類似団体平均値は、当時の事業数を基に算出していますが、企業債残高対事業規模比率及び管渠改善率については、平成26年度の事業数を基に類似団体平均値を算出しています。